

全国研究集会で発表

『外来固定チームナーシングの導入』



外来 西村容子

9月8日、私は、固定チームナーシング全国研究集会」に参加しました。「全国集会」への参加は2回目ですが、今回は私たち外来で導入した固定チームナーシングについて発表することになりました。外来では、平成12年から勉強を始め、平成13年に外来固定チームナーシングの組織づくりや概要の成文化等に取り組みました。外来スタッフの多さ、各科の業務が多種多様であるため試行錯誤して平

成14年に導入しました。

分科会での私たちの発表は、会場がほぼ埋まるくらいに参加者があり緊張しました。

他病院の発表を聞き、思ったことはこの外来でも似たような問題を抱えているということでした。

今、外来における看護ニーズは量的にも質的にも増加しています。

今までの各外来の枠をはずした応援体制を整える必要があります。

応援体制について日替りチームリーダー制や他科への一ヶ月の研修などの取り組みが発表されました。

今年度は私たちも応援体制について目標を掲げています。今回の発表会で得た事を活用していきます。

です。



看護を振り返る会

上野桂子氏の講演を聞いて 外来 岡山優子



H15.9.27

去る10月24日、在宅看護に向けての患者・家族の想い」と題し、訪問看護の歴史や目的、現状について

の講演を聞くことができました。

高齢社会において、慢性疾患や寝たきり、痴呆老人の占める割合が多く、医療費の膨張、社会的入院等の問題から介護保険制度が導入され、在宅看護の必要性が問われる中、とても興味深く聞く事

ができました。

振り返れば看護職として当然のごとく、退院時には、退院指導をしてきましたが、今回の講演を聞いて、「今まで行ってきた看護は、それで良かったの？」と問われているようで、改めて考えさせられました。それは、患者様が退院して帰られる家での状況がどうなっているのか？ 住む環境はどうか？ 常に見守ってくれる人がいるのか？ など充分考えていたのだろうか？ ただ病気に対するケアを中心に、病院で行っているやり方を押しつけて指導してきたのではなかったか。ふみ込んだ指導をやっているつもりでも十分できていなかったのではなかったかと、反省するばかりです。

今後はそれぞれの家族に合った療養のし方や、看護方法を尊重し、在宅看護が患者様の生活の基盤をくずさない様、看護の専門家の立場から、支えていく事が大切だと思いました。